

ケアマネ みやざき

一般社団法人
宮崎県介護支援専門員協会
ケアマネみやざきNo.32
令和6年1月1日発行
発行責任者
担当理事 今別府大作

「会長挨拶」

医療と介護、福祉を必要とする高齢者は今後も増加し、支え手としての生産年齢人口が急激に減少する中で多くの困難な課題に対して、主人公である地域の住民お一人おひとりに、医療・介護などの専門職のほかさまざまな人たちが力を合わせてよりよい、対応していこうという地域包括ケアシステム構築の中心に私たち介護支援専門員がいます。

物価高騰やコロナがもたらしたともいえる特殊な離職増加も医療介護環境を一変させました。その中で待遇の問題や人材確保は現実問題として極めて重要です。国は持続的な賃上げを謳っていますが、介護の現場での収入は一般企業と違って、国が定める介護報酬という公定価格に管理されているため、営業努力による経営の改善には限界があり、ほかの全産業平均との賃金の格差はなかなか埋まりません。国民に必要な適切な介護サービスを提供できるよう、次期介護報酬に対する財源確保の重要性を強く感じますし、日本介護支援専門員協会を通じて国に強く要望しています。

一方、人材不足の結果、利用者に尊厳ある、安心・安全で質の高いサービスを提供できなくなり必要なところに適切な支援ができないために、更なる生活の質の低下、しいては命に係わる重度化を招きかねない状況となります。それを防ぐためには、的確かつ丁寧で手厚いケアマネジメント実践を担う介護支援専門員の存在を各方面に再認識してもらう必要があります。介護支援専門員の人材確保難については業務負担の軽減や処遇の改善など複合的な要因が重層的に絡んでいます。

①「介護支援専門員の資格取得の方法」、②「魅力ある仕事としての確立」、③「適切な社会からの評価」など多面から検討する必要があります。

視点を変えると、人材確保には①介護支援専門員資格取得のための入口支援と、②定年退職を含めた離職者防止の2方向から取り組む必要があると考えます。今年、宮崎県介護支援専門員協会が行った介護支援専門員の実働調査（回答期間：令和5年6月1日～6月30日の1か月、調査方法：郵送調査、回答率：92.8% 932事業所／県内の配置基準がある1,004事業所【そのうち19事業所は休止中と回答】）では、県内での実働員数は1,830人でした。そのうち専任／兼任：1830人／605人、主任介護支援専門員の資格者数は617人でした。実働者の高齢化は進んでおり、定年とともに離職される方が多い一方で、若い世代での資格所得者が減っています。一昨年（令和4年）6月に実施した日本介護支援専門員協会全国大会in宮崎でメインテーマとした、「（現行の介護支援専門員資格取得方法以外に）専門学校や大学を経て、介護支援専門員の資格が得られるような方策の検討」が、日本介護支援専門員協会の令和5年度年間計画に「介護支援専門員の地位向上および人材確保に関する特別委員会」設置として取り上げられ、その4人の委員のうちの1人として令和5年11月第1回特別委員会に参加しました。船出にあたりたくさんの課題が確認されましたが、今後加速的に進展できるものと期待しております。

今後も多くの機会に県内会員の皆さまの話を伺って、さらに国を動かせるよう組織の強化を図りたいと考えます。今後ともよろしくご厚意申し上げます。



一般社団法人
宮崎県介護支援専門員協会
会長 牛谷義秀



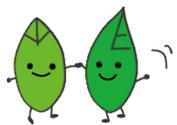
第17回一般社団法人日本介護支援専門員協会全国大会 2020+3 inとちぎ



令和5年10月21日（土）、22日（日）に「第17回一般社団法人日本介護支援専門員協会全国大会2020+3inとちぎ」が茨城県、群馬県、栃木県3県合同で開催されました。

昨年度、宮崎県において全国大会が開催されたことは、まだ記憶に新しいのではないのでしょうか。宮崎県内からも多くの会員の皆様が現地やオンラインで参加されたようです。

初日は、日本介護支援専門員協会の活動報告、6つの分科会が。2日目は、基調講演・シンポジウム・記念講演が開催されました。「ケアマネジメントの質とは？～支えあうことの価値を問い直そう～」をテーマに国際医療福祉大学院の白澤 政和 教授が講演されました。また記念講演では、「老いること 死ぬこと 愛すること」をテーマに日本福祉大学中央福祉専門学校の渡辺 哲雄 氏が軽快な口調でお話いただき、盛会のうちに閉会しました。



令和5年度 介護支援専門員と リハビリテーション専門職との合同フォーラム



令和5年10月1日（日）に宮崎市のシーガイアコンベンションセンターにて、介護支援専門員とリハビリテーション専門職との合同フォーラムが開催されました。

当日は、来場とオンラインのハイブリッド方式で開催され、介護支援専門員やセラピストの皆様の多くのご参加をいただきました。

当日は、こいわや循環器内科クリニックの小岩屋 宏 先生に「心不全連携と心臓リハビリテーションの重要性、心不全患者を守るためにできること」をテーマにご登壇いただきました。心不全とは何か、心不全によるADLやQOLへの影響について詳しくご講義いただきました。また、クリニックで実際に行っている心臓リハビリテーションについても詳しく説明していただき、参加者も食い入るように先生の話に耳を傾けていました。また、グループワークでは、介護支援専門員とセラピストが心臓リハビリテーションについて様々な視点から意見交換をしており、有意義な時間となったのではないかと思います。





令和6年度 介護支援専門員研修カリキュラム見直しに向けた勉強会 ～「適切なケアマネジメント手法」の進め方について～



令和5年10月18日（水）にJA・AZMホールにて「令和6年度 介護支援専門員研修カリキュラム見直しに向けた勉強会」が開催されました。

皆様もご存じの通り、令和6年度から介護支援専門員研修のカリキュラム見直しが行われます。その中で「適切なケアマネジメント手法」の進め方について、講師・ファシリテーターを担っていただく会員の皆様にご参加いただき、内容の共有や協議をいたしました。これからは、令和6年度のカリキュラム見直しに向けて具体的な講義、演習の企画など中身を詰めていく作業が始まることと思います。

皆様が研修受講後、実践で活用できるように準備してまいります！



令和5年度 自立支援型ケアマネジメント推進事業 ～第2回 在宅医療・介護、多職種連携協働に関する研修会～

令和5年12月19日（火）にJA・AZMホールにて自立支援型ケアマネジメント推進事業～第2回在宅医療・介護、多職種連携協働に関する研修会～が開催されました。

今回の研修では、「最期まで自宅で暮らしたい」ご利用者の希望を叶えるために～メディカルケアステーションで実現した多職種連携～をテーマに、訪問看護ステーションなでしこ3号館の中村 久美 様に講義とグループワークを展開していただきました。

当日は、多職種連携の重要性や、それらを難しくする要因などについて講義を行っていただきました。また、事業所で実際に活用しているメディカルケアステーションを活用した多職種連携の実際についてお話をしていただきました。

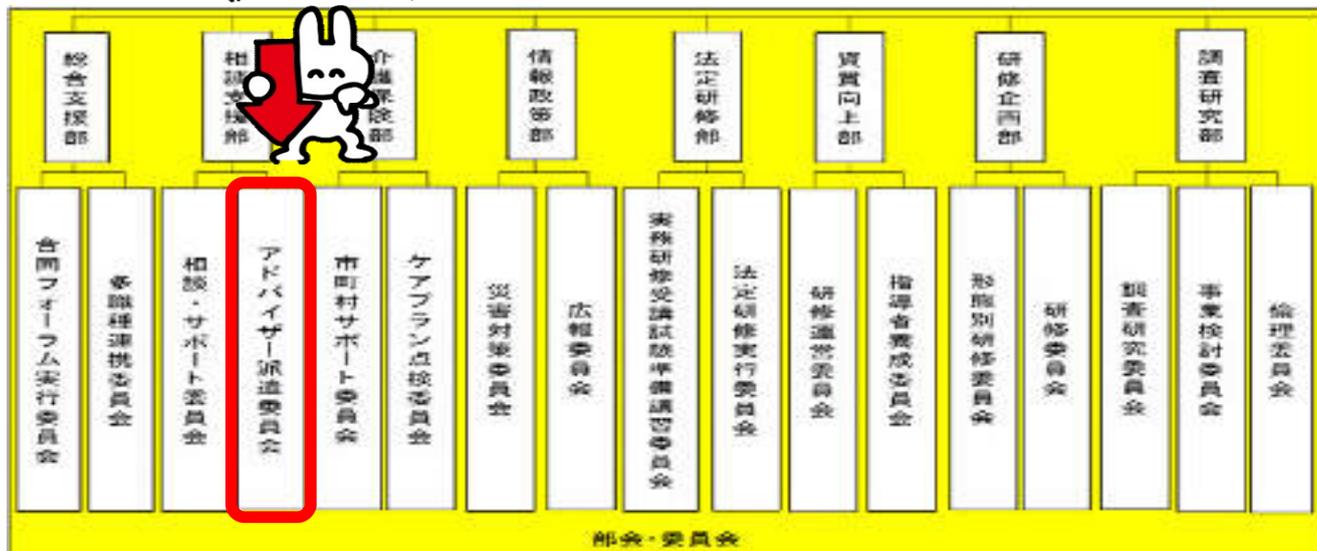
介護支援専門員にとって連携は必要不可欠なことです。今回の研修は、実際の事例を交え多職種と対面でグループワークができ、今後活用できる内容でした。



介護予防ケアマネジメントアドバイザー派遣事業

宮崎県介護支援専門員協会内には、様々な部会や委員会がありますが、今回新たに「アドバイザー派遣委員会」が立ち上がり、協会組織図の変更がありましたのでお知らせいたします。ホームページ内に協会の組織図がありますので、そちらもご確認ください。

「check」



令和5年10月19日（木）に介護予防ケアマネジメントアドバイザー派遣事業アドバイザー研修会が開催されました。令和6年度の介護保険制度改正で介護予防支援の指定が居宅介護支援事業所にも広がります。ぜひ、この事業の活用をご検討ください。

宮崎県介護支援専門員協会会員数の動向

令和5年12月現在の地域ブロックネットワーク別会員数

ブロックネットワーク別	正会員	準会員
宮崎・東諸県	606	9
小林・えびの・西諸県	99	0
西都・児湯	127	0
日南・串間	146	0
都城・北諸県	230	1
日向・東臼杵	134	0
延岡・西臼杵	173	1
鹿児島県	1	0
合計	1516	11

令和5年度の介護支援専門員実務研修受講試験は、宮崎県内において756名が受験し、138名が合格しました。合格率は18.3%と今回も狭き門でした。合格された皆様おめでとうございます。一緒にケアマネジャーの仕事の素晴らしさを社会に伝えていきましょう！

編集後記

令和6年度は、診療報酬、障害福祉制度、介護報酬のトリプル改定の年ですね。皆さんも特に介護保険部会や介護給付費分科会の議論の内容が気になるころなのではないでしょうか。さて、昨年は大谷に始まり、大谷に終わると言っても過言ではないのではないでしょうか。WBCで14年ぶりの世界一、そしてホームラン王に2年連続満票でのMVP獲得、そしてロサンゼルスドジャースとの10年1000億円を超える超大型契約と世界中を驚かせています。それに都城高校出身の山本 由伸 投手も同じくドジャースへの入団が決まりました。今年は介護保険もですが、この2人からも目が離せません！（D・I）